

カナダの食糧政策



カナダの食糧・農業政策は、国民に対する上質食糧の十分かつ安定した供給、消費者の所得および生産者の利潤を考慮した適正価格の設定、輸出や海外食糧援助を続行させるための食糧の供給継続と生産拡大——が三つの柱になっている。

カナダ政府は、こうした政策を維持するため、国内の農業・食糧生産者に対し、いろいろな奨励・援助活動を行ってきた。農業そのものを考えた場合、目標は投下資本および投下労力からみて、カナダの他の部門の経済諸活動にたざさわる人々が享受する収入レベルに匹敵する収入を挙げる機会を農民に与えることである。この目標を達成するため、政府はどのような手段や政策をもっているだろうか。

第一に効率的な生産単位を助成し、調整するため、例えばカナダ全土に支店網をもつ農業信用金庫による長期の農業融資や、一般の市民銀行から農業従事者への貸付けを実質的に保証する農業改善融資法を通しての短期融資が行われている。農業金融に加えて、政府は小規模農業計画を通じて、小農場経営者に対し、農業経営に関するカウンセリング、不経済な農場を経営している農業従事者への補助金、他の小規模農場を最少限の頭金で購入できるようにするための特別信用貸付などの奨励策も講じている。

農業金融計画および小規模農業開発計画は両方ともカナダの農業にとって最も効率的であると考えられる家族農業経営をさらに強化することにしよう。

第二に特異な市場の状況に対応し、短期的また季節

的要因による不経済かつ不必要な調整をなくするため、政府は農業安定局と協同市場法という二つの手段を用意している。

前者は、指定の主要農産物について、最低価格を保証するという支持価格制度を實施している。（過去五年間における平均価格の九〇パーセントに価格を維持し、これにその間の生産コストの変化を調整

する。）生産奨励というよりも、農業従事者側の「嫌気投げ」を防止するためである。この指定農産物リストに載っていない生産物についても、協同市場法による調整措置ができる。協同市場法によって、また、農産物の売り渡しが成立する以前に、農業従事者の組合に金を前渡しすることができ。

第三に、政府は市場拡大と販売政策改善のため、指定農産物について全国的販売機関の設立を許可する全国農産物販売機関法（卵や七面鳥の販売は、現在この法に従って行なわれている）を立法化し、生産物の等級、検査衛生上の基準を設定し、またカナダの主要農産物の市場の分析と予測を行っている。

第四に、農業生産を不安定にする主要な要因のひとつである天災の影響を少なくするため、政府は、伝染病予防を含めた動植物の疾病対策の方法や悪天候の影響軽減の方法の開発に取組み、たゆみな



い研究プログラムを進めてきている。

第五に、国際、国内市場におけるカナダの農業・食糧生産の競争力を維持・向上させるため、政府は、作業実態の記録と生産物の等級づけなどの形で農産物の品質改良プログラムを強力に推進している。またそれぞれの農場の競争力を高める上で欠かせないのがカンファーム(CAN

FARM)プログラムと、関連制度としての中央記録システムおよび農地計画。地方自治体および大学との共同作業として実施されているこのカンファーム計画は、カナダの諸農場の経営を向上させる上できわめて有用な手段となっている。農場経営研究プロジェクトの鍵ともいえる存在である。

カナダ全体としてみると、天与の農産資源と国内総需要は不均衡で、その結果カナダの農産物（とくに穀物と油用種子）の大部分は、輸出用に生産されている。ところが、農産物とくに穀物の輸出市場は、きわめて不安定とあって、生産者収入の安定をもたらすための政策や計画の策定・実施に力が入れられていた。そのひとつの現われが生産者の現金コストに對する収入マージンを保証する西部穀物安定化法である。農産物の価格が下がった場合でも、この法によって、生産者収入を安定させることができるし、生産者の

投入するコストが増加した場合も同様である。また、価格が下り、コストが上昇するとうように、両者が同時に起こった場合にも、生産者の収入は安定する。市場での農産物価格の下降よりも速いか、または同じ程度の場合、支払いが一時止められるという利点もある。

政府は、国内消費者の利益を守るため、農産物の大部分に対して他の諸国よりもはるかに低い保護しか与えないままに、国際貿易市場にのぞませてきた。輸入農産物に一般の工業製品輸入関税の約半分の関税しか課してこなかった。その意味で、農業界が、国際貿易市場に対する緩衝剤として機能し、払って来た代償は相当なものであった。

二つの特定商品、すなわち国内消費用小麦とスキนมルクに対しては、政府は直接的に補助金を払うという形で、消費者価格を低く抑え、維持するように援助してきた。低収入家庭に対しては、原則として食糧価格を考慮して決めた年金の支給、または補助金の支給という形で問題処理を行ってきた。

具体的な取組みが必要であるという意味においておそらく最も重要なものは、食糧生産と人口とのバランス問題である。一国家としてのカナダが、十分な食糧自給、いや世界の多くの人々への食糧供給までも含めて、将来を語り得ることは幸である。こうした相対的に優位な位置にカナダがあることのひとつの利点は、五十年前先を見越した方法・対策を今から研究し、練るための時間を与えてくれることにある。